

バックアップデータのリカバリ手順

2023年9月20日

はじめに

本書は、バックアップデータを使用して、CxSAST をリカバリする手順を記述します。

前提条件

本書の手順書を使用するには、次のものがが必要です。

- CxDB、CxActivity、CxARM (※) のデータベースのバックアップ
- Checkmarx プログラムがインストールされたディレクトリのバックアップ
- CxSrc ディレクトリのバックアップ
- Access Control と CxEngine の環境変数 (CxSAST9.3 以降のみ)
 - ・ AccessControlClientCredentialsSecret
 - ・ MessageQueuePassword
 - ・ CX_ES_MESSAGE_QUEUE_PASSWORD

※CxARM は M&O (管理とオーケストレーション) 機能をインストールする場合に必要となります。

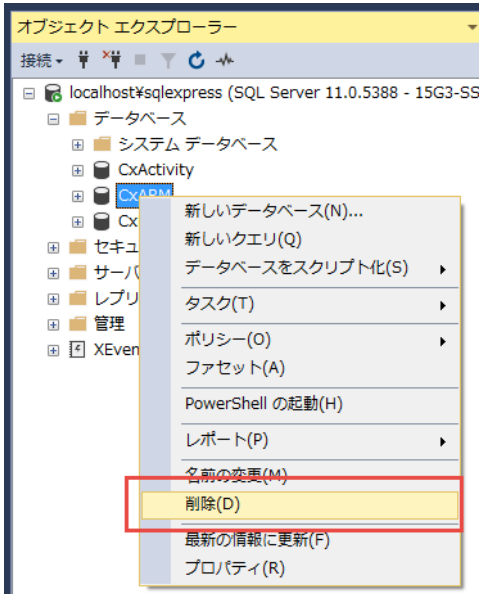
リカバリ手順

1. インストーラを使用して、既存 CxSAST をアンインストールします。リカバリ対象は同じバージョンのであれば、アンインストールをスキップしても問題ございません。
プログラムと機能から Checkmarx Enterprise を右クリック>アンインストールを実行します。
インストーラ画面から、アンインストールをクリックして実行します。

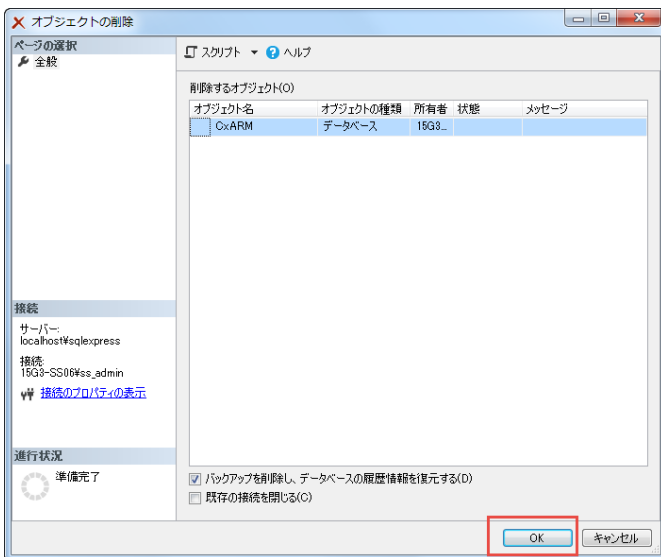


完了しましたら、終了ボタンをクリックします。

- CxDB、CxActivity、CxARM のデータベースを削除します。
SQL Management Studio を実行し、対象の SQL Server に接続します。
データベースを右クリック>削除を選択します。



削除対象のデータベースが選択されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



注意：削除が失敗した場合、「既存の接続を閉じる」オプションにチェックを入れてから再実行してください。

- リカバリしたいバージョンの CxSAST を同じディレクトリにインストールします。
インストールは「Checkmarx CxSAST インストールガイド」をご参照ください。
インストールしてから、正常に動作することを確認してください。
- インストール完了後、リカバリしたいホットフィックスとコンテンツパックを適用します。
適用してから、正常に動作することを確認してください。

- Windows サービスから CxSystemManager、CxJobsManager、CxScansManager、CxSastResults、CxEngineService、CxARM、CxARMTEL、CxRemediationIntelligence、ActiveMQ を停止します。サービスはインストールされている Checkmarx コンポーネントによって異なります。

CxARM、CxARMTEL、CxRemediationIntelligence は M&O（管理とオーケストレーション）機能をインストールしている場合のみ停止します。

- IIS Web Server を停止します。
管理者権限で、コマンドプロンプトから「iisreset /stop」を実行します。
- インストールされている Checkmarx ディレクトリを退避または削除してから、バックアップされた Checkmarx ディレクトリからリストアします。

バックアップ時と同じように、Windows コマンドツールなどでディレクトリやファイルの属性情報を全てコピーしてください。

robocopy の参考例：

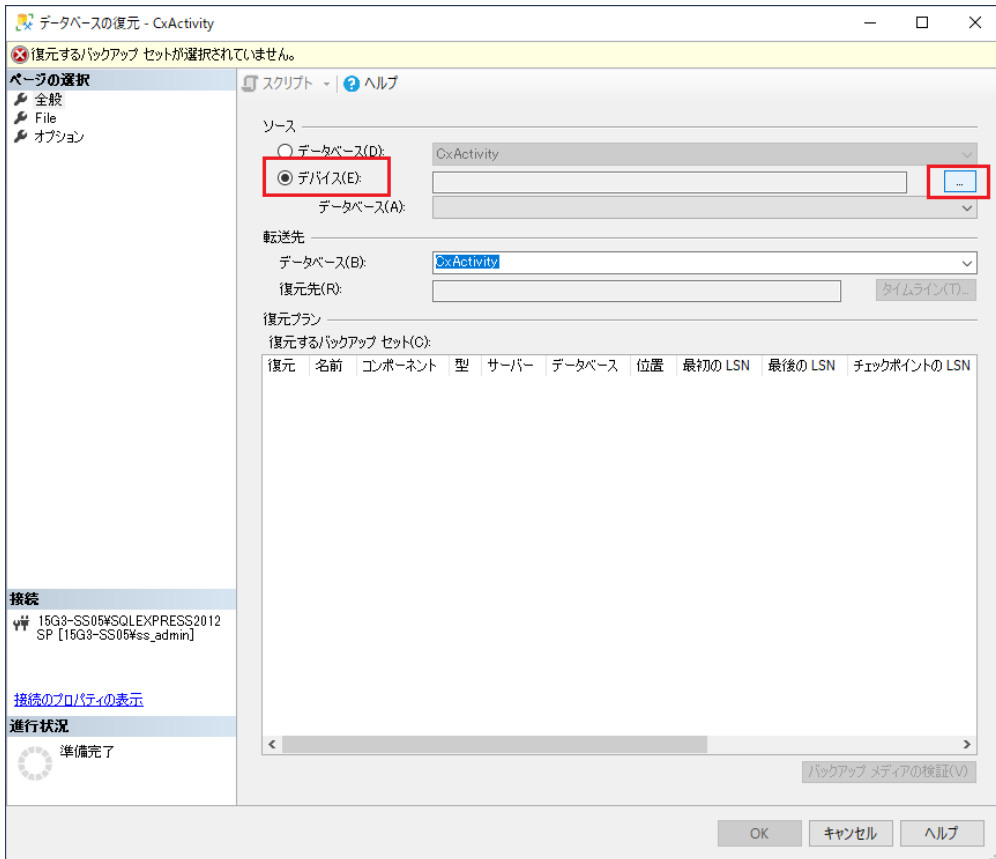
```
robocopy C:\¥BK¥CheckmarxBK "C:\¥Program Files¥Checkmarx" /E /NP /DCOPY:DAT /COPYALL /R:1 /W:1 /LOG:Checkmarx.log
```

- SQL Server Management Studio 等を使用して、CxDB、CxActivity、CxARM を復元します。下記は SQL Server Management Studio を使用した復元の手順です。

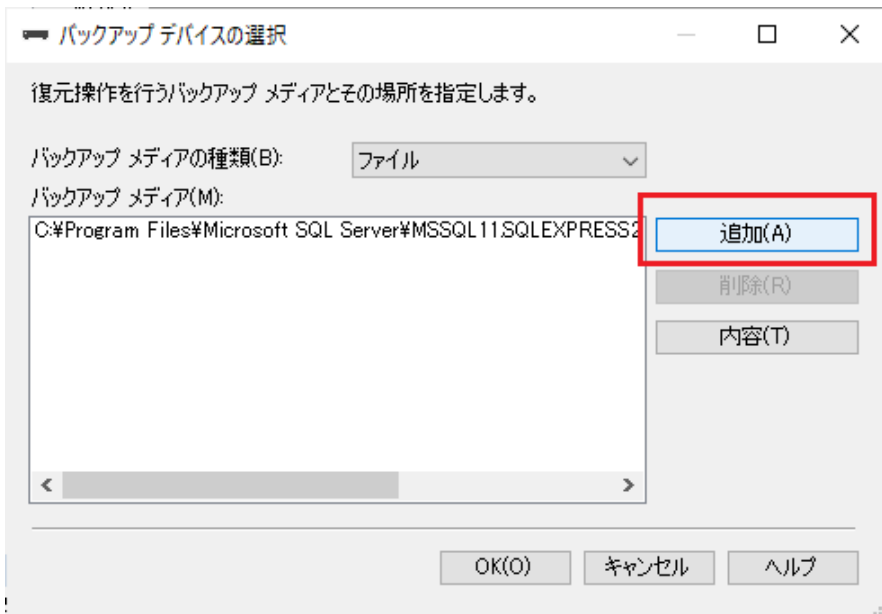
CxARM は管理とオーケストレーションをインストールしている場合のみ復元します。
(ア) データベースを右クリック>タスク>復元>データベース...をクリックします。



(イ) デバイスをクリックして、右横のボタンをクリックします。

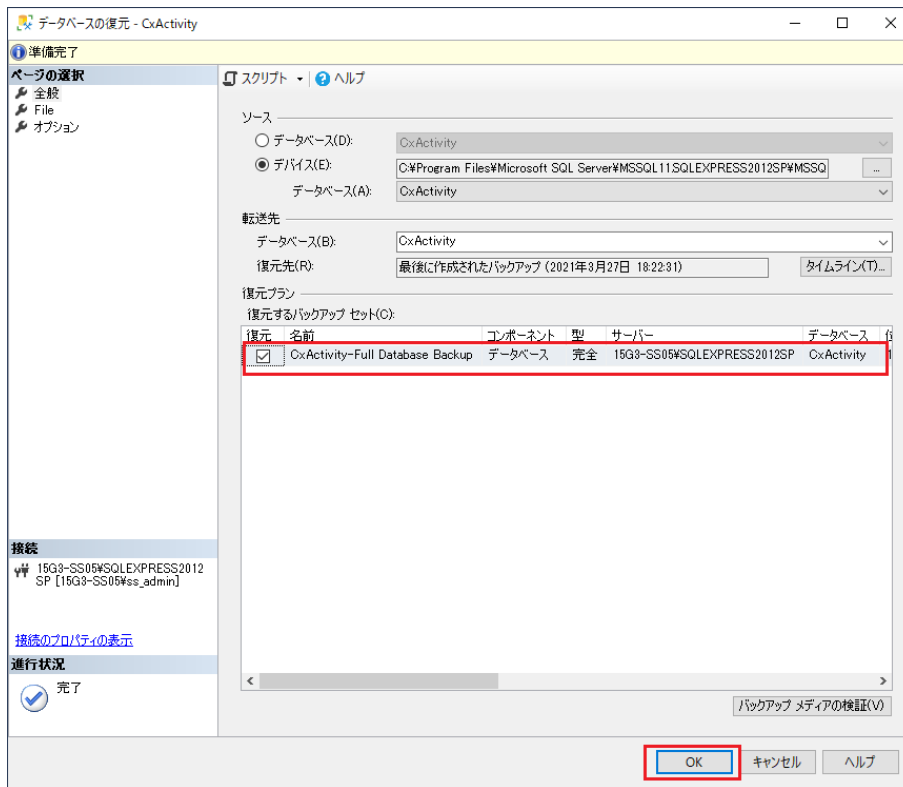


(ウ) 追加ボタンをクリックして、バックアップファイルを指定します。

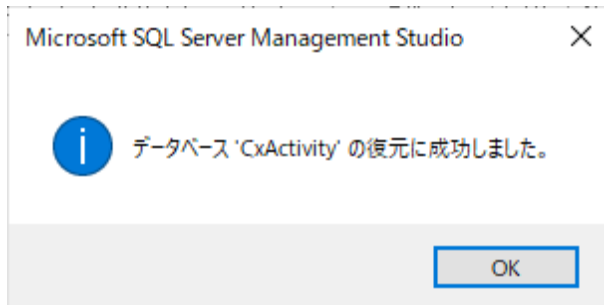


OK ボタンをクリックして画面を閉じます。

(エ) 復元にチェックボックスが入っていることを確認し、OK ボタンをクリックすると復元が始まります。

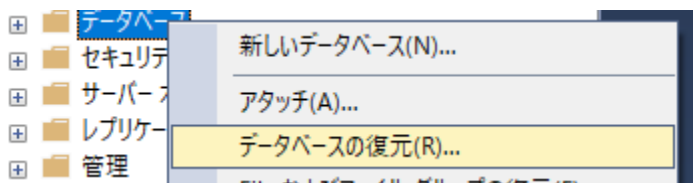


(オ) 完了すると、ダイアログが表示されます。



(カ) 復元したいすべてのデータベースに対して上記を実行します。

注意:バックアップファイルからデータベースをリストアしようとした時に「データベース*の復元に失敗しました。」場合があります。その場合は手順2. に従って、既存のデータベースを削除してから、データベースを右クリック>データベースの復元...から実行してください。



9. CxSrc ディレクトリに保存したスキャンソースのフォルダをリストアします。バックアップ時と同じように、Windows コマンドツールなどでディレクトリやファイルの属性情報を全てコピーしてください。

robocopy の参考例：

```
robocopy C:\¥BK¥CxSrcBK C:\¥CxSrc /E /NP /DCOPY:DAT /COPYALL /R:1 /W:1 /LOG:CxSrc.log
```

10. CxSAST 9.3.0 以降、Access Control および CxEngine パラメーターは、Windows の環境変数を介して表示および編集できるようになりました。

以下の Access Control と CxEngine の環境変数を復元します。

- AccessControlClientCredentialsSecret
- MessageQueuePassword
- CX_ES_MESSAGE_QUEUE_PASSWORD

環境変数の画面でバックアップし忘れた場合、リストアした DB に下記の SQL を実行し、値を取得することは可能です。

- AccessControlClientCredentialsSecret

```
SELECT [value]
FROM [CxDB].[dbo].[CxComponentConfiguration]
where [Key]='AccessControlClientCredentialsSecret'
```

- MessageQueuePassword
- CX_ES_MESSAGE_QUEUE_PASSWORD

```
SELECT [value]
FROM [CxDB].[dbo].[CxComponentConfiguration]
where [Key]='MessageQueuePassword'
```

11. Windows サービスから CxSystemManager、CxJobsManager、CxScansManager、CxSastResults、CxEngineService、CxARM、CxARMTel、CxRemediationIntelligence、ActiveMQ を開始します。

12. IIS Web Server を起動します。

管理者権限で、コマンドプロンプトから「iisreset /start」を実行します。

リカバリが完了後に、ログイン、既存スキャン結果、新しいスキャン等のテストを実行して、CxSAST が正常に稼働していることを確認します。

以上